

【副会長（大阪府警察 堺市警察部長）挨拶】

本日、いろいろなご意見をいただきありがとうございました。

意見交換でありました、PTA の見守り活動については、私が大阪市役所のある警察署長の時、小学校が一つで、ビジネスマンばかりで見守りする方はほとんどいない状態でした。そういう中、負担のないように少ない人数の方で輪番をされ見守りされていました。どうしてもこの行事があるので見守りしてほしいというときは、警察にご相談をいただき、警察に時間があれば通学路を見守りさせていただく形をさせていただいていました。

また、池崎様からお話があった防犯ボランティアについては、我々も非常に課題だというふうに感じております。大学や高校などの若いボランティアになっていただける方を、各学校に働きかけております。徐々に、各学校でボランティアをしたいという方ができており、そこから輪になって徐々に増えている状況になります。防犯活動について、我々も若い世代に対してのアプローチを続けていきたいと考えています。普段からご協力をしていただいているということに対して厚くお礼申し上げます。

犯罪情勢については事務局から話があったので、私からは市長もおっしゃっておられた特殊詐欺についてお話しします。昨年大阪府下の特殊詐欺の被害は大変深刻でした。昨年、大阪府下では毎日約1000万円の被害が出ています。被害一件当たり換算すると、平均して約138万円が、大阪府下でだまし取られています。堺市でいうと、昨年一件当たり約223万円。大阪府下の方の平均額より85万円も堺市民の方は多くだまし取られています。非常に厳しい現実です。

警察では今までの捜査体制に加えて、この春に各都道府県警察と連携して捜査に当たる新しい体制づくりました。国内や海外で広域的に活動する犯人を捕まえたり、その背後にある犯罪グループの実態解明を進めています。しかし、詐欺グループというのは、毎日のように電話をしています。詐欺グループは、失敗と成功を何度も何度も繰り返していますので、練度があがります。これに対して、特殊詐欺の被害者の方々は、特殊詐欺の電話に出るのが初めてという方がほとんどです。練度に圧倒的な差があります。さらに、場合によっては高齢者の方々の認知機能の衰えというのが、騙されないようにする力の衰えに繋がっているという可能性もあります。被害者の方々にたとえ特殊詐欺について知識があって、私は大丈夫と自信があって、十分注意されていても、電話に出れば、騙されないようにする力が騙そうとする力に負けてしまう、それが悲しい現実です。被害者の中には、財産を騙し取られたことを家族からすく責められて自殺された方もいます。また、被害者が自殺した後遺族が責任を感じて、後追い自殺した例もあります。被害者は高齢者が多く、家族の役に立ちたい、我が子や孫を救いたいという優しい思いから、被害に遭っている人ばかりです。我々警察は毎日の活動を通じてそういう被害者の方々と接しますので、1人でもそういうつらく悲しい思いをする人をなくしたいという気持ちを一層に強くさせられます。こうした中、先日政府の犯罪対策閣僚会議で「国民を詐欺から守るための総合対策」というのが決定されました。国レベルでの取組も強化されています。犯罪者グループにやられないため、自治体、事業者、警察が緊密に連携して、それぞれができる抑止対策を確実にやるのが、今までにも増して私は重要だと思います。先に開催された大阪府安全なまちづくり推進会議の総会でも、吉村知事が特殊詐欺に関して、条例の改正も含めて、より一層踏み込んだ対策について検討する必要がある旨のお話がありました。私ども大阪府警としても、

非常にタイムリーな問題提起をご提案いただいたと受け止めており、早速プロジェクトチームを作りました。

いろいろと申し上げましたが、大阪府警としましては、引き続き府民が安心して暮らせる安全なまち大阪、安全なまち堺の確立に向けての取り組みを進めていきたいと思っています。更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、ご参会の皆様方の益々のご健勝と、堺市のさらなる安全安心を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。